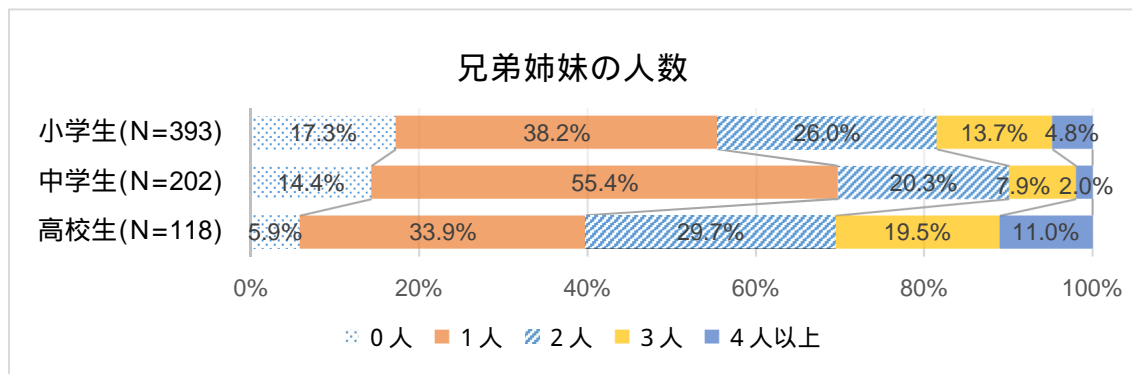


こどもにやさしいまちづくりアンケート調査結果報告（比較表）

【別紙報告書該当箇所：P5（小学生調査） P19（中学生調査） P33（高校生調査）】

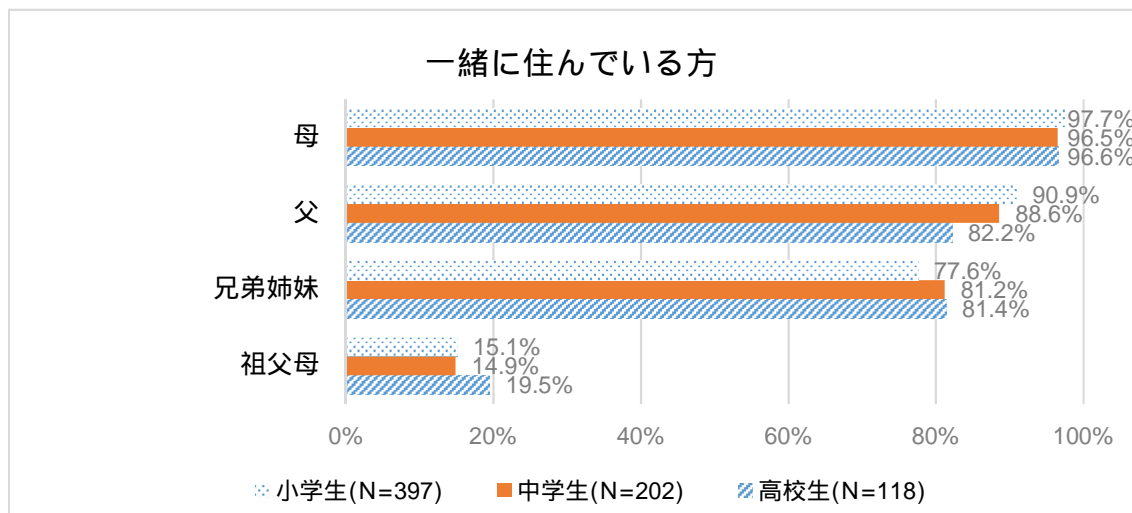
質問 兄弟姉妹の人数についてお答えください。



どの世代についても兄弟姉妹の人数は1人であると回答した割合が多く、続いて2人という回答が多くなっている。一方、兄弟姉妹の人数が0人であると回答した割合をみると、年齢が下がるとともに増加する傾向にある。

【別紙報告書該当箇所：P5（小学生調査） P19（中学生調査） P33（高校生調査）】

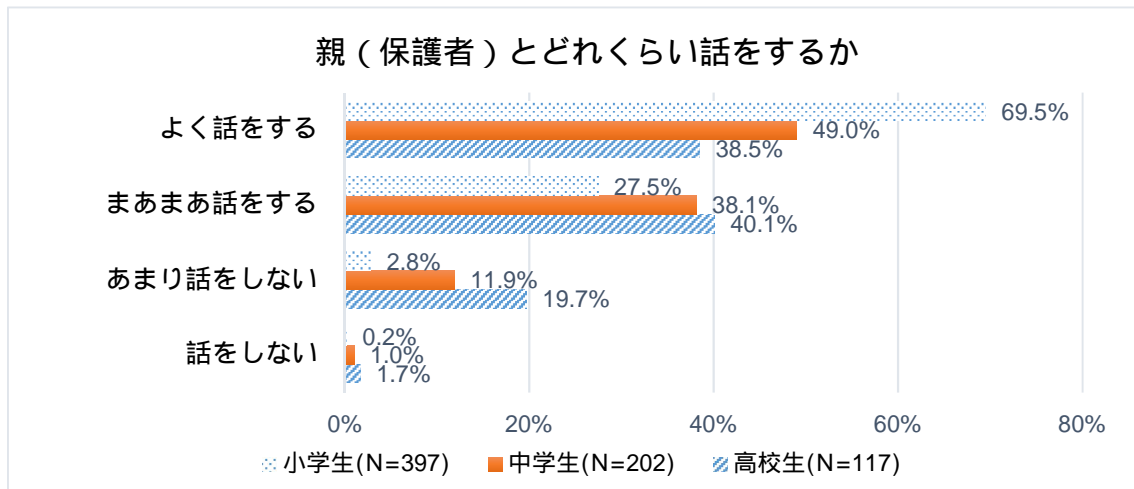
質問 一緒に住んでいる方についてお答えください。



どの世代についても回答に同じ傾向が見られる。祖父母と一緒に住んでいるという回答が2割以下となっていることから、子どもたちの家族構成の現状としては核家族世帯が多いことがうかがえる。

【別紙報告書該当箇所：P6（小学生調査） P20（中学生調査） P34（高校生調査）】

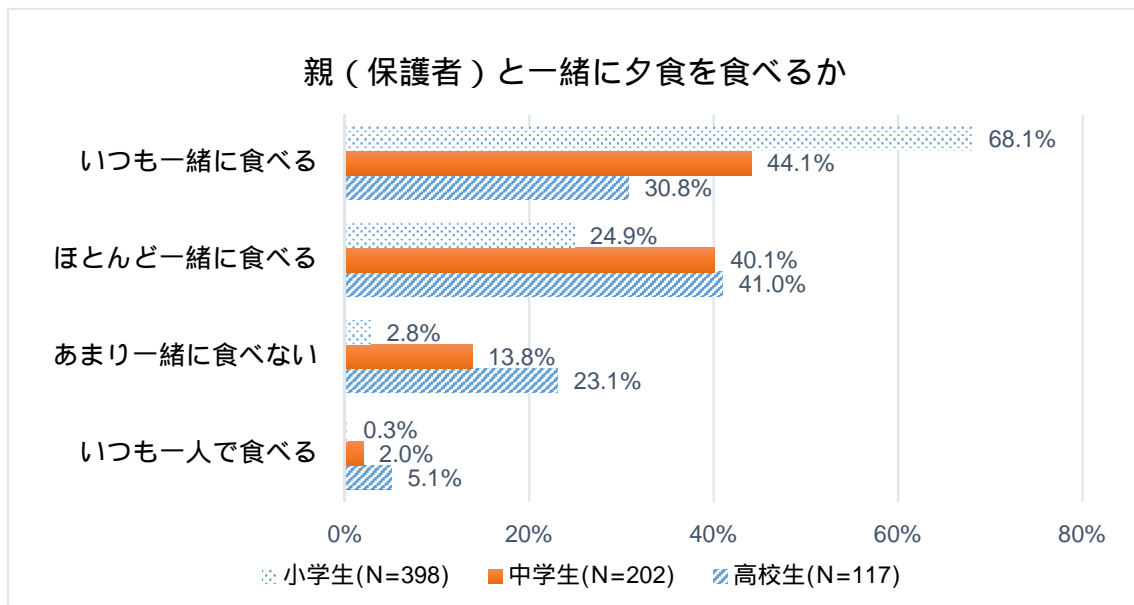
質問 あなたは、一日の中で、親（保護者）とどれくらい話をしますか。



「よく話をする」と回答した割合は、小学生で69.5%、中学生で49.0%、高校生で38.5%となっており、年齢が上がるとともにその割合は減少している。一方、「話をしない」と回答した割合は、小学生で0.2%、中学生で1.0%、高校生で1.7%、「あまり話をしない」と回答した割合と合わせると、小学生で3.0%、中学生で12.9%、高校生で21.4%となっており、年齢が上がるにつれてその割合は増加している。

【別紙報告書該当箇所：P7（小学生調査） P21（中学生調査） P35（高校生調査）】

質問 あなたは、親（保護者）と一緒に夕食を食べますか。

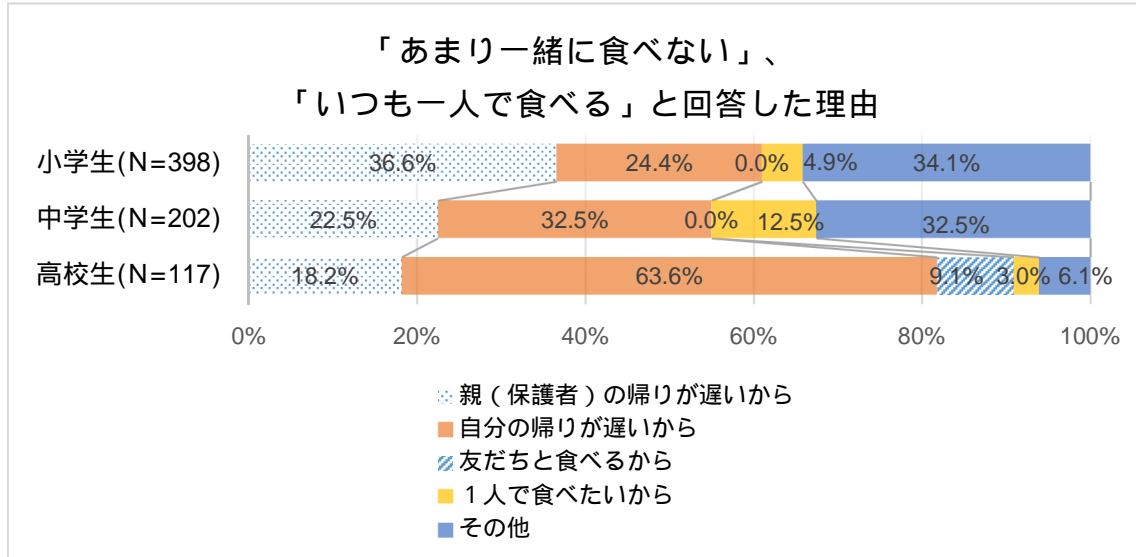


「いつも一緒に食べる」と回答した割合は、小学生で68.1%、中学生で44.1%、高校生で30.8%であり、年齢が上がるにつれてその割合は減少している。一方、「いつも一人で食べる」と回答した割合は、小学生で0.3%、中学生で2.0%、高校生で5.1%、「あまり一緒に食べない」と回答した割合と合わせると、小学生で3.1%、中学生で15.8%、高校生で28.2%となっており、年齢が上がるにつれてその割合は増加している。「親とどれくらい話をするか」という質問の回答と同様に、夕食についても年齢が上がるにつれて一緒に

食べる機会が減少していることがうかがえる。

【別紙報告書該当箇所：P7（小学生調査） P22（中学生調査） P36（高校生調査）】

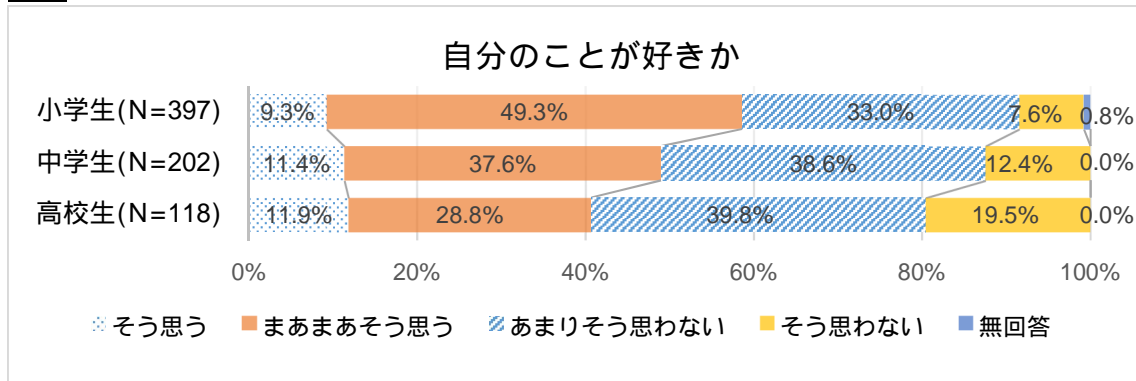
質問 親（保護者）と一緒に夕食を食べるかとの質問に対し、「あまり一緒に食べない」、「いつも一人で食べる」と回答した方で、その理由は何ですか。



小学生では「親の帰りが遅いから」と回答した割合が多いが、年齢が上がるると「自分の帰りが遅いから」と回答した割合が逆転して多くなっている。核家族や共働き家庭の増加に加え、子ども自身も習い事で忙しく、家族で過ごす時間が減少してきていることが考えられる。

【別紙報告書該当箇所：P9（小学生調査） P23（中学生調査） P37（高校生調査）】

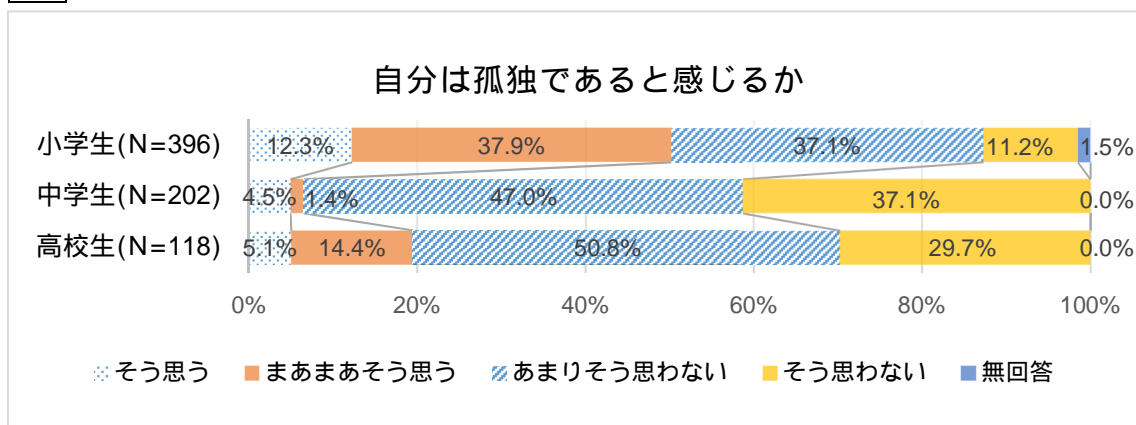
質問 あなたは、自分のことが好きですか。



「そう思う」、「まあまあそう思う」と回答した割合は、小学生で58.6%、中学生で49.0%、高校生で40.7%となっており、年齢が高くなるにつれてその割合が減少している。自分のことが好きかどうかという質問は、自己肯定感の指標となるものである。年齢が高くなるにつれて、他者を意識し比較するようになったため自己肯定感が低下するものと考えられる。

【別紙報告書該当箇所：P9（小学生調査） P23（中学生調査） P37（高校生調査）】

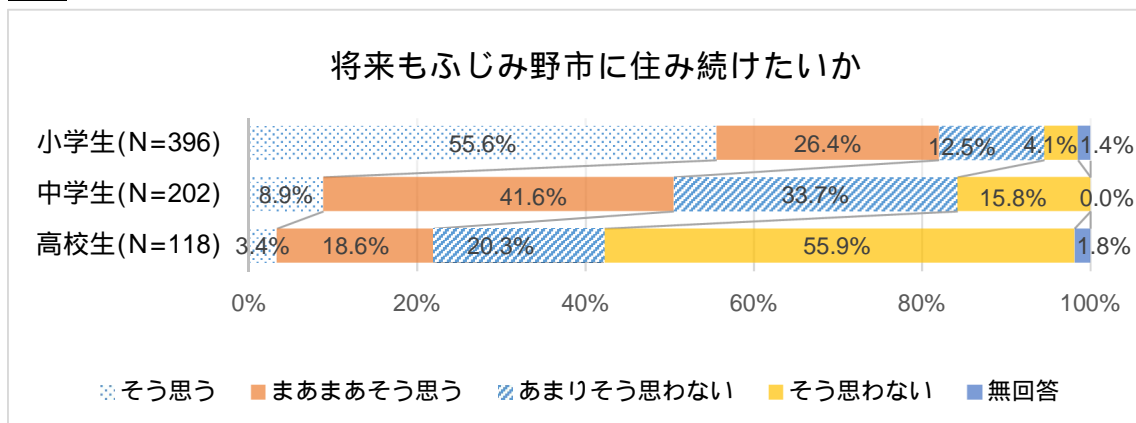
質問 自分は孤独であると感じますか。



「そう思う」、「まあまあそう思う」と回答した割合は、小学生で 50.2%、中学生で 5.9%、高校生で 19.5%であり、小学生の割合が突出して多い。

【別紙報告書該当箇所：P9（小学生調査） P23（中学生調査） P37（高校生調査）】

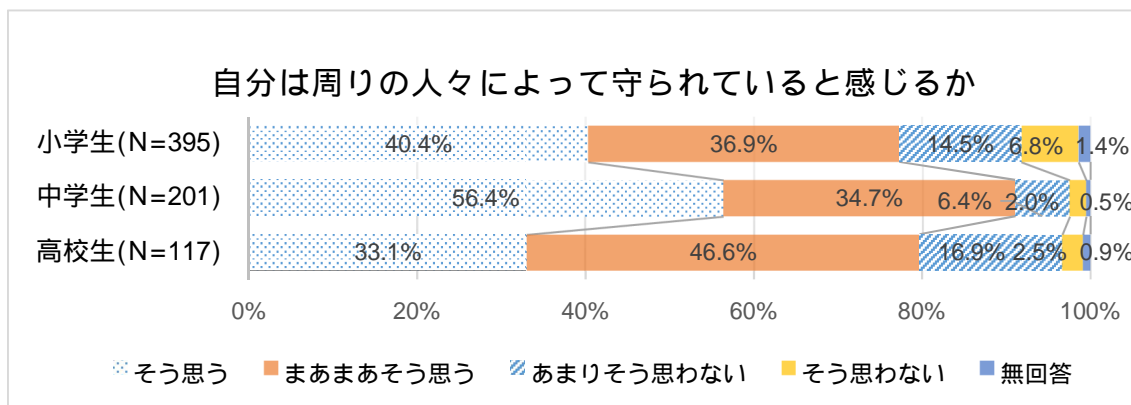
質問 あなたは、将来もふじみ野市に住み続けたいですか。



「そう思う」、「まあまあそう思う」と回答した割合は、小学生で 82.0%、中学生で 50.5%となっている。一方、高校生で「そう思う」、「まあまあそう思う」と回答した割合は 22.0%にとどまり、他の世代と比較して極端に減少しているように見える。しかし、アンケート調査の対象となった高校生の中には市外からも通学している子どもも含まれていることから、市内在住の高校生のみでの回答結果（N = 30）を見ると、「そう思う」が 10.0%、「まあまあそう思う」が 56.7%、「あまりそう思わない」が 13.3%、「そう思わない」が 16.7%、「無回答」が 3.3%となっている。

【別紙報告書該当箇所：P9（小学生調査） P23（中学生調査） P37（高校生調査）】

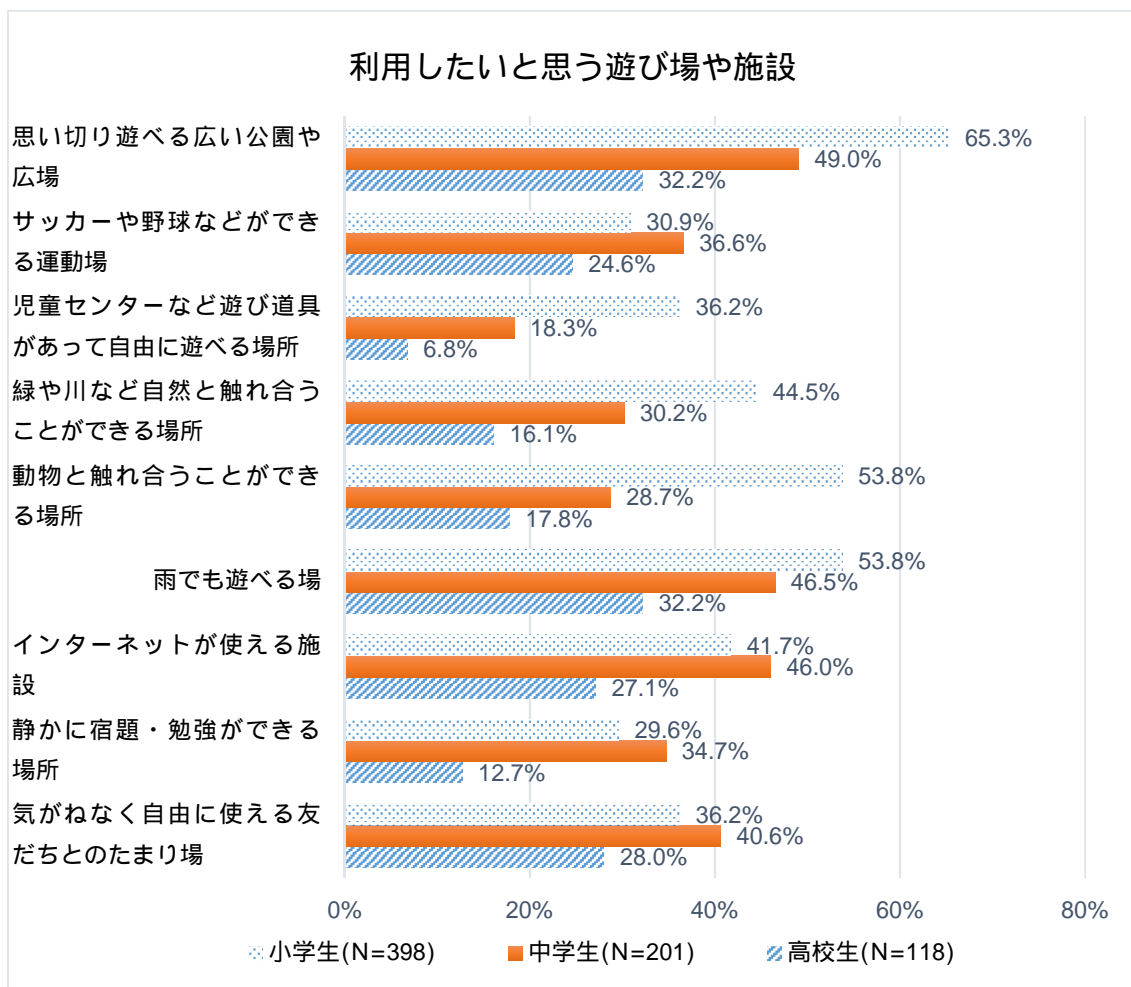
質問 自分は周りの人々によって守られていますか。



「そう思う」、「まあまあそう思う」と回答した割合は、小学生で77.3%、中学生で91.1%、高校生で79.7%である。小学生、中学生においては、ヒアリング調査の実施により、登下校時の交通安全の取組や声掛けなどによって、地域の見守りを身近に感じていることが分かった。

【別紙報告書該当箇所：P11（小学生調査） P24（中学生調査） P38（高校生調査）】

質問 あなたが、利用したいと思う遊び場や施設は何ですか。

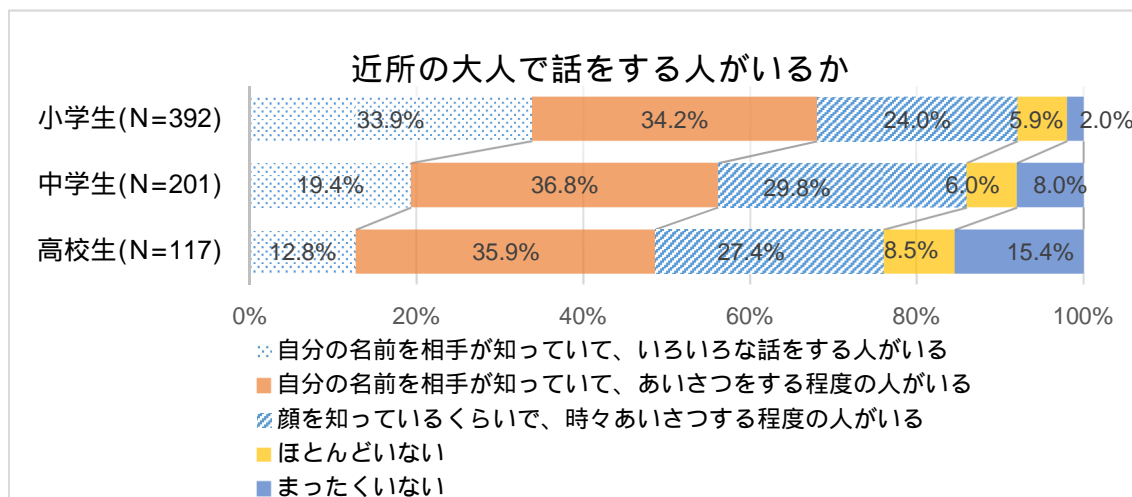


どの世代についても「思い切り遊べる広い公園や広場」と回答した割合が最も多くなって

おり、子どもたちにとって公園や広場が重要な遊び場として位置付けされていることがうかがえる。他に、「雨でも遊べる場所」、「インターネットが使える場所」、「気兼ねなく自由に使えるたまり場」という回答の割合がどの世代にも共通して多くなっている。

【別紙報告書該当箇所：P12（小学生調査）、P25（中学生調査）、P39（高校生調査）】

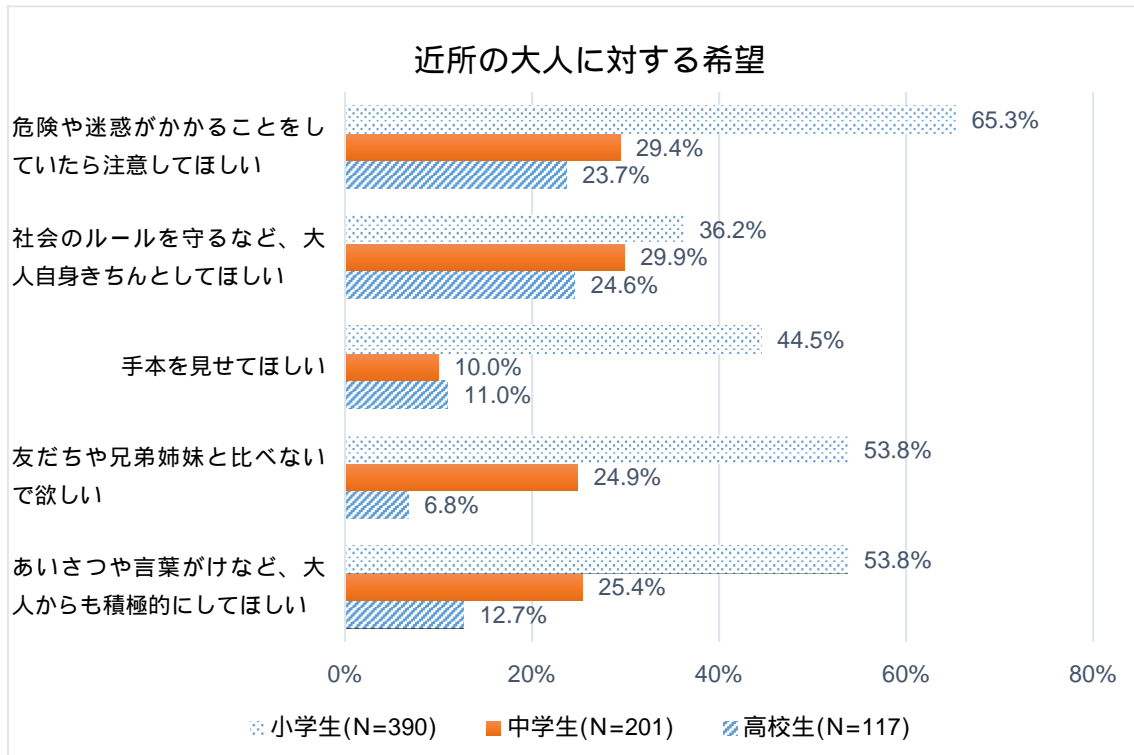
質問 近所（住んでいる地域）の大人で話をする人はいますか。



「自分の名前を相手が知っていて、いろいろ話をする人がいる」と回答した割合は、小学生で 33.9%となっている。この「自分の名前を相手が知っていて、いろいろ話をする人がいる」という回答の割合は、中学生になると 19.4%に減少し、高校生になるとさらに 12.8%まで減少する。中学校、高校の時期に地域との関わりが薄れていることがうかがえる。

【別紙報告書該当箇所：P13（小学生調査）、P26（中学生調査）、P40（高校生調査）】

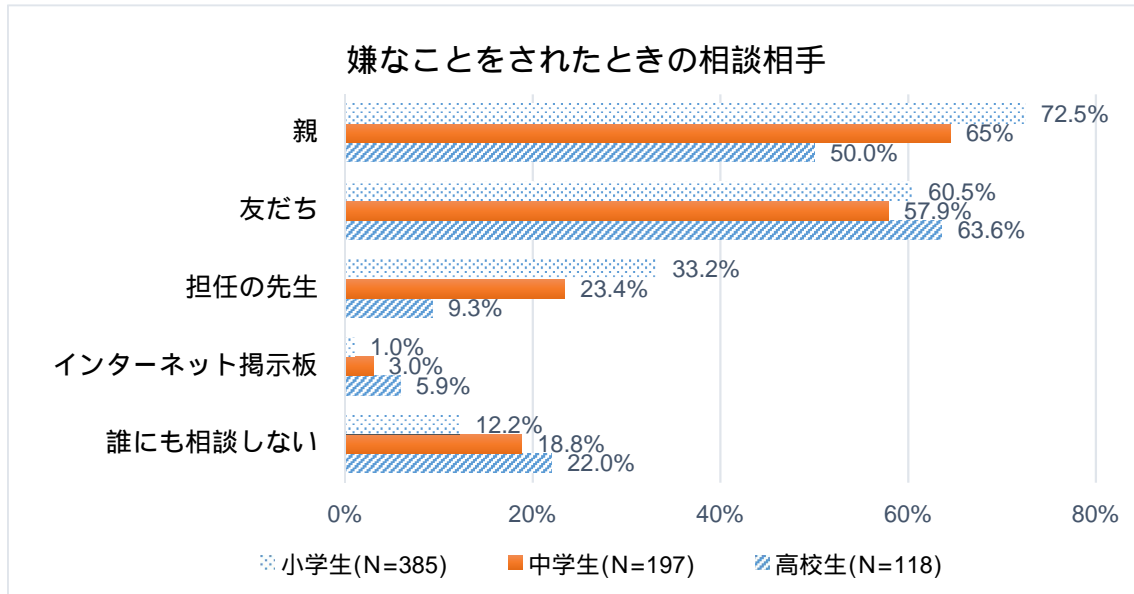
質問 あなたは、近所（住んでいる地域）の大人に対して、どのような希望がありますか。



小学生及び中学生では、「危険や迷惑がかかることをしていたら注意してほしい」、「友だちや兄弟姉妹と比べないでほしい」といった回答の他に、「あいさつや言葉がけなど、大人からも積極的にしてほしい」、「手本を見せてほしい」、「社会のルールを守るなど、大人自身きちんとしてほしい」と回答した割合が多く、子どもたちがいかによく大人たちの言動を観察しているかということがうかがえる。また、高校生においても、「社会のルールを守るなど、大人自身きちんとしてほしい」と回答した割合は多くなっている。青少年の健全な育成において、大人自身がその役割や責任の大きさを認識し、手本になるように行動していくことが必要とされていると考えられる。

【別紙報告書該当箇所：P15（小学生調査）、P28（中学生調査）、P42（高校生調査）】

質問 あなたは、嫌なことをされたときに、誰か、または、どこかに相談しますか。



どの世代においても、「親」、「友だち」という回答が突出して多く、その後に「兄弟姉妹」や「担任の先生」などが続いている。普段接することが多い身近な人が相談相手となっているようである。また、「インターネット掲示板」に相談するという子どもも一定数いることから、手軽に匿名で相談できる場所も子どもたちにとって必要な相談先であると考えられる。一方、「誰にも相談しない」という回答が、小学生は 12.2%、中学生は 18.8%、高校生は 22.0%となっており、年齢が上がるにつれて増加している。悩みや不安があっても誰にも、どこにも相談できない子どもが全体の約 2 割程度いる状況である。